

(1) 出題方針

英語は例年どおり、長文二題(合計150点)と会話文一題(50点)の構成(合計200点)となっている。長文問題の本文は、最近の雑誌、新聞、書籍などからの一部抜粋で、歴史や科学などの様々な分野から出題するようにし、古代ケルト族の埋葬習慣から、北大西洋海流、休息の重要性、猫が苦痛を感じているかどうかをAIを使って察知する方法に至るまで多岐にわたる題材を選んだ。本文は出典の著作権を遵守しているため原文通りとし、難易度が高すぎるとされる単語や成句、および専門的な用語や概念には注で説明を加え、内容に関する専門的な知識がなくても解答できるよう工夫した。

長文問題は一題が約800~1200語、二題の合計語数がおおよそ1800語~2000語と、例年に比べるとやや分量が多くなっている。語数が多いものも、過年度の問題と難易度が大きく異なるように、また各日程の問題の難易度もできるだけ均一となるよう設問を工夫した。長文問題は、語彙や構文などに関する知識や読解力を問う問題に加え、前置詞や接続詞の空所補充問題、および問題によってはセクションの見出しに関する問題、単語・句・文を意味・内容が近いものへの置き換え問題、整序英作文問題、本文の意味・内容に合致する文を選択する正誤問題、および英文和訳問題を出題した。これらの設問については、過年度の出題形式を踏襲している。

空所補充問題および置き換え問題は、文脈に照らして最も適切なものを選択するものが多く、正解を選択するには熟読が必要となる。整序英作文問題では文法や構文の理解力が問われる。セクションの見出しを空所に補充する問題では、文脈に沿った読解力や話題の転換に気づく力が求められる。正誤問題では、本文の意味・内容に合致するか否かの根拠が本文中に示されているため、問題文と本文の関係、論理構成や展開を正しく把握して読み進める力が求められる。

会話文の語数は約600語(550~680語)程度と、こちらも例年と比較してやや分量を多くした。設定された場面や登場人物の人間関係を把握し、会話の流れを正確に理解することが求められる。また、英語の自然な会話に慣れているかも正解を導き出すために重要となる。会話文からは和文英訳問題を出題した。

(2) 解答状況および解説

前置詞、接続詞などの空所補充問題の平均得点率は例年通り高くなっている。語彙問題および置き換え問題は、語彙の知識のみで解答可能なものに比べて、文脈から判断することが必要なものは、得点率が低くなる傾向があった。置き換え問題は、選択肢から答えを安易に類推するのではなく、本文と照らして適切な置き換えを選ぶ力が要求される。

整序英作文問題は、文法能力、構文理解能力、語彙力などを問う問題となっている。語彙力、文法の知識に加え、英語の使用に慣れている受験生は、選択肢を眺めるだけで自然な英語を構成することができるようになる。日頃から、多くの機会に英語に触れているかどうかということも重要になる。

内容一致問題は、概ね本文の流れに沿って順番に選択肢が設けられているが、その部分だけでなく本文全体の要旨や論旨の展開を把握していなければ誤った解答をしてしまう問題もある。長文二題の最後の方にある内容一致問題の読解には時間がかかるため、内容一致問題を念頭に長文を読み進める訓練が有効かもしれない。

会話文問題については、今年度はやや分量が多かったが、ソーシャルメディアや朝型・夜型タイプなど理解しやすい題材であったせいか、例年並みの平均点であった。会話文問題には口語的な言い回しが多く出てくるので、高得点をあげるには、日頃から自然な英語使用に親しむことが重要である

う。

英文和訳問題と和文英訳問題の受験生全体の平均得点率は日程による顕著な差は見られなかった。英文和訳の訳出にはいくつかの方法があるが、部分的には訳出できていても、全体として意味をなさない日本語訳も散見された。また、和文英訳の問題は、会話の文脈の中での正確な理解力と自然で平素な英語表現能力が求められる。

(3) 受験生へのメッセージ

上記のように、本学の英語入試では、主として長文の論旨や論理的構造を正確に把握しながら、著者の主張を正しく把握する能力、的確な語彙選択、および構文による訳出の能力があるかどうかを問う。本学での語学教育や教養教育ではその能力を基に思考力の涵養とコミュニケーション能力の養成に力を注ぐため、その基盤が入学前に培われているかどうかと問われていると考えていただきたい。

以下に受験準備のアドバイスをいくつか挙げておく。

- ①長文問題の読解には多くの集中力と持続力が必要となる。日頃の授業を大切にすること。
- ②過去の入試問題に取り組み、語彙、構文力を培いながら読解力や訳出力を伸ばす。
- ③長文問題の本文は、最近の雑誌、新聞、書籍などから抜粋し、多岐にわたる。普段から時事問題や話題のトピックにも関心を持つようにすること。
- ④長文を読む際には、段落のつながりと著者の主張を意識して読む。段落の冒頭の主題となる文(トピックセンテンス(topic sentence)/キーセンテンス(key sentence)といわれる文)で文意を把握し、段落ごとの関係を意識して読む。
- ⑤長文問題の熟読に時間を要するかもしれないため、最後の会話問題については短時間で文脈に沿った正しい解答を選べるよう、英語の会話表現に慣れておく。
- ⑥訳す際のポイントとしては、単語の選択や構文(例えば、和文英訳であれば、従属接続詞、動名詞、不定詞を用いるなど)のバリエーションがあるが、的確な選択によって自然な訳出を行う必要がある。英語で作文をする習慣をつける。
- ⑦会話文から出題される和文英訳では、スペルや時制でのミスは減点の対象となる。そのため、スペルが正確に書けるように努力し、時制を意識しよう。また、英文和訳の解答欄と和文英訳の解答欄を取り違えて記入する受験者が少数ながら毎年のようにいるが、そのようなケアレスミスをおかすことがないように気をつけていただきたい。

入試は容易ではないが、それを突破するためにあなたが苦勞して身につけた英語力は一生の宝となる。世界がますますグローバル化していくなかで、もし英語が自在に使えたならば、あなたの情報収集力や発信力は大いに高まり、それに応じて活躍の場も広がることだろう。いくつも単語を覚えたり、文法を理解したり、毎日コツコツ勉強するのは大変かもしれない。しかし、その地道な努力こそが、輝かしい未来に向かってあなたを前進させてくれるのだ。

◆英語◆ 出題の意図

101	出題の意図
[I]	<p><i>Smithsonian Magazine</i> に掲載された道具と人間の認知機能についての記事からの読解問題である。身近な話題を普段はあまり考えないような視点から書かれているので、少しなじみの薄い語彙も含めて、内容を理解できることが期待されている。慣用的表現も文脈から読み取れるように、という観点からの出題である。内容確認の正誤問題 I-E では微妙な表現の違いからの判断が問われている。難しい単語は注に記してあり、文章自体が自らの経験に照らし合わせて考えられる内容であったので、理解しやすい読解問題と言える。</p>
[II]	<p>本出題文は <i>Science Illustrated</i> に掲載された文章で、騒音が身体に与える悪影響と、騒音環境を軽減するための科学技術を用いた製品開発について書かれている。空所補充問題では、文脈を理解して接続詞を選ぶ能力、句動詞や前置詞を含むイディオムの知識、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを目的としている。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせるができるかを問うた。</p>
[III]	<p>本出題文は、二人の姉妹がソーシャルメディアについて各々の認識について語り合う内容である。問題 III の意図は、英語の自然な会話が理解できるか、また伝えたい事柄を英語で表現できるかを確認することである。空所に入る適切な文章を見つけるためには、会話の流れの論理的構成をつかむことが重要になってくる。和文英訳においては「気が引ける」というような言い回しが身につけているかどうかを問うた。</p>
102	出題の意図
[I]	<p>本出題文は <i>Scientific American</i> に掲載された文章で、同じ言葉であっても人によって解釈が異なること、そしてそれがコミュニケーションの困難さを生むことについて述べられている。空所補充問題では、文脈を踏まえて接続詞を選ぶ力や、句動詞や前置詞を含むイディオムに関する基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題および節・句の言い換え問題では、語彙力に加え、文脈から意味を推測する力を問うことを目的としている。整序英作文問題では、関係副詞などの基本的な文法知識に加え、該当箇所の前後の文脈を適切に理解・判断し、自然でまとまりのある英文の流れを構築できるかを見た。内容一致問題では、本文全体の論旨を的確に把握し、該当箇所と照らし合わせる力を評価した。</p>
[II]	<p>本出題文は <i>Time</i> に掲載されたエッセイで、いかに休息が効果的な働き方をするために大切であり、また、どのような休憩の取り方が効果的かについて述べられている。簡単な単語を組み合わせた慣用的表現の意味を文脈から読み取る問題を中心に、II-C では比喩的表現の理解も期待する問題。文章の理解にはどの意見が誰のものであるか、判断が必要であるので著者自身ではなく、他の研究者の研究結果などの報告はしっかり押さえておきたい。働き方改革など現代の課題を検討する機会も多いなか、どのような働き方が提案されているか、そしてその効果についても理解することが期待されている。</p>

[Ⅲ]	<p>本出題文は、二人の人物が缶詰の歴史をめぐる講義について意見を交わすというものである。空所に入る適切な文章を見つけるために、会話の流れの論理的構成がつかめているか、また英語の自然な会話にどれだけ親しんでいるかをはかることを意図した。和文英訳においては、「思っていた以上に興味深かった」という内容が適切に表現できるかどうかを問うた。</p>
103	<p style="text-align: center;">出題の意図</p>
[Ⅰ]	<p>本出題文は、<i>Scientific American</i> に掲載された文章で、人間にはわかりにくい猫の痛みを AI を使って測定しようとする研究について述べたものである。空所補充問題では、文脈を理解して接続詞を選ぶ能力、句動詞や前置詞を含むイディオムの知識、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを意図している。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
[Ⅱ]	<p>本出題文は、Brookfield による著書 <i>Teaching for Critical Thinking</i> の一部であり、批判的思考の重要性と、その習得過程で直面しやすい課題について論じている。空所補充問題では、文脈を踏まえて接続詞を選ぶ力や、前置詞を含むイディオムなど基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題および節・句の言い換え問題では、語彙力に加えて文脈から意味を推測する能力を測ることを目的としている。整序英作文問題では、基本的な英文法やコロケーションに関する知識に加え、該当部分の前後関係を的確に理解し、自然でまとまりのある英文を構成できるかを見た。内容一致問題では、出題文の主旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
[Ⅲ]	<p>本出題文は、夜型の人物と昼型の人物が各々の認識について語り合う内容である。問題 III の意図は、英語の自然な会話理解できるか、また伝えたい事柄を英語で表現できるかを確認することである。空所に入る適切な文章を見つけるためには、会話の流れの論理的構成をつかむことが重要になってくる。和文英訳においては「もっと自由に～できるようになった」というような言い回しが身につけているかどうかを意図した。</p>
104	<p style="text-align: center;">出題の意図</p>
[Ⅰ]	<p>本出題文は <i>Smithsonian Magazine</i> に掲載された文章で、古代ケルト民族の特異な埋葬習慣に関するものであった。空所補充問題では、文脈を理解して接続詞や副詞を選ぶ能力、句動詞や前置詞を含むイディオムの知識、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを意図している。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。英文和訳問題では文構造を理解し、文脈に合った表現ができているかを問うた。</p>

[Ⅱ]	<p>本出題文は、<i>The Conversation</i> に掲載された文章で、大西洋北部に及ぶ海流の仕組みおよび地球温暖化が与える影響を述べている。空所補充問題では、文脈を理解して接続詞や副詞を選ぶ能力、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを意図している。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
[Ⅲ]	<p>二人の人物がパーソナリティー・テストについて各々の認識について語り合う内容である。問題 III の意図は、英語の自然な会話が理解できるか、また伝えたい事柄を英語で表現できるかを確認することである。空所に入る適切な文章を見つけるためには、会話の流れの論理的構成をつかむことが重要になってくる。和文英訳においては「手書きで書く」「かつては～しなければいけなかった」という内容が表現できるかどうかを問うた。</p>
105	<p>出題の意図</p>
[Ⅰ]	<p>本出題文は <i>The New York Times</i> に掲載された文章で、世界各地で夜間の照明利用が増えた結果、環境や人間社会にどのような悪影響が出てきたかを示す研究結果について書かれている。空所補充問題では、文脈を理解して接続詞を選ぶ能力や基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを意図している。整序英作文の問題では、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。I-E の内容一致問題では、本文に出てくる複数の事例から適切な内容を読み取ることができるかを問うた。また、I-F の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。最後の英文和訳問題では、過去完了の否定形を理解し、文脈に沿った表現で訳せているかを問うた。</p>
[Ⅱ]	<p>本出題文は、<i>Live Science</i> に掲載された記事で、海から陸に上がった古代生物から現代の哺乳類が進化してきたことを踏まえ、なぜ人間はエラを持たないのかを解説したものである。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。II-D の整序英作文の問題では、making something という並びに気づけるかどうかポイントである。II-E の問題では、直接テキストに書かれていない内容について、前後関係から意味を推測できる力を問うた。</p>
[Ⅲ]	<p>二人の人物が旅行前の準備をする過程で、どのように荷造りするかについて意見を交わす内容である。空所に入る適切な文章を見つけるために、会話の流れの論理的構成がつかめているか、また英語の自然な会話にどれだけ親しんでいるかをはかることを意図した。また、和文英訳においては、「私たちが計画してきたことにぴったり」という内容が適切に表現できるかどうかを問うた。</p>

106	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、<i>Reader's Digest</i> に掲載された文章で、アメリカ合衆国における書籍の規制の歴史的経緯や法的規定、現在の問題を述べている。空所補充問題では、文脈を理解して接続詞を選ぶ能力、句動詞や前置詞を含むイディオムの知識、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを意図している。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は <i>The Japan Times</i> に掲載された文章で、健康的な食の摂取と温室効果ガス排出の削減をどのように両立できるか、最新の研究成果と政策的支援の両面から書かれている。問題Ⅱも基本的には問題Ⅰと同様の意図で出題しており、空所補充問題では、文脈を理解して接続詞を選ぶ能力、句動詞や前置詞を含むイディオムの知識、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを目的としている。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>
〔Ⅲ〕	<p>本出題文は、リョウとユミの一連の会話であり、最近ユミが訪れたニュージーランドについて二人が意見を交わすという内容である。問題Ⅲの意図は、英語の自然な会話が理解できるか、また伝えたい事柄を英語で表現できるかを確認することである。空所に入る適切な文章を見つけるためには、会話の流れの論理的構成をつかむことが重要になってくる。和文英訳においては「手早く昼食をとる」「二倍のお金がかかる」というような表現ができるかどうかを問うた。</p>
107	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、<i>The Society for Personality and Social Psychology</i> に掲載された文章で、私たちが他者の第一印象をどのように形成するのかについて、著者自身の研究成果も交えながら論じたものである。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。節・句の言い換え問題では、文脈から切り離して理解できるものと切り離しては理解できないものの両方を問うた。I-E の内容一致問題では、文章内の特定の箇所の問題からより広い文脈の理解が必要になる問題まで出題した。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、<i>Nautilus</i> に掲載された文章で、デジタル時代においても科学者が黒板とチョークを愛用し続ける理由について述べたものである。問題Ⅱも基本的には問題Ⅰと同様の意図で出題しており、空所補充問題では、文脈を理解して接続詞を選ぶ能力、句動詞や前置詞を含むイディオムの知識、基本的な英文法の知識を問うことを意図した。語彙問題と節・句の言い換え問題では語彙の知識の有無に加え、文脈から意味を推測する能力を問うことを意図している。整序英作文の問題では、語彙力、基本的な英文法の知識に加え、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるか、まとまりのある自然な英文の流れに親しめているかを見た。内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるかを問うた。</p>

〔Ⅲ〕

本出題文は、作業を早めに始めて余裕を持って終わりたい人物と、締め切り直前から始めたほうが仕事はかどる人物が、各々の認識について意見を交わすというものである。空所に入る適切な文章を見つけるために、会話の流れの論理的構成がつかめているか、また英語の自然な会話にどれだけ親しんでいるかをはかることを意図した。和文英訳においては、「締め切り直前のプレッシャー」「やる気を出す」という口語的な言い回しが適切に表現できるかどうかを問うた。